中学校の部　最優秀賞

# 二度の出会いから

大田市立第一中学校　３年
福井　祐奈（ふくい　ゆな）

「イヤイライケレ。（ありがとうございます。）」「イランカラプテ。（こんにちは。）」この言葉は、アイヌ民族の方との交流会で教えてもらったアイヌ語です。みなさんはアイヌ民族について知っていることがありますか。また、アイヌの人々に関する人権課題をどのように考えていますか。

私はこれまでに二回、アイヌの人々の人権について学習したことがあります。一回目は小学生の時の交流会です。事前にどんな民族なのか、どのような文化なのか、どんな暮らしをしているのかということを調べました。その時に、アイヌ民族の方への差別や、それが今も続いていることを知りました。

交流会の日、アイヌ民族の方が来られていろいろな話を聞くことができました。マッシュポテトにイクラを混ぜたチポロイモや、サーモンルイベ（解凍させていない刺身）などの料理の話がとても興味深く、日本文化との違いを感じながらも親しみを抱きました。また、「自

然界すべてのものに魂が宿る」という精神文化をもち、祭りで踊る「古式舞踊」など、固有の文化を発展させたことを知りました。差別をされていたと感じさせない明るさで、アイヌ民族の歌や踊り、言葉などを教えてもらう、楽しい時間になりました。

中学三年生になり、総合的な学習の時間で人権学習をしました。他にもいろいろな人権課題がある中で、私が「アイヌ民族の人権」を探究課題として選んだのは、小学校ではわからなかったことをもっと深く学んでみたかったからです。また、小学生の時には気づくことができなかったことに、気づけるかもしれないと思ったからです。

事前の調べ学習では、「和人化政策」が行われたことを知りました。アイヌの言葉を禁止して無理やり日本語を使わせたり、狩りや漁を中心とした生活から、農業中心の生活にさせたりした事実に、驚きを感じました。何を目的としてこんなことをしたのか、疑問を持ちました。

当日は、新宿で「ハルコロ」というアイヌ料理のお店を経営しておられる宇佐照代さんに、ＺＯＯＭで話を聞きました。宇佐さんとの再会でも優しい印象は変わらず、明るく前向きな強さを感じました。

お話を聞いて課題が二つあると考えました。一つ目は「アイヌ人へ

の差別や偏見による格差が残っていること」です。そのためアイヌ人の就職の機会が十分に保障されず不安定な生活状況になったり、子どもの進学状況に、和人との差が生じたりしています。二つ目はアイヌ民族の文化や人権課題について知っている人や知ろうとする人が少ないことです。

これらの課題を解決するために私たちにできることは何でしょうか。まずはお互いの違いを個性と考え尊重することです。勝手な決めつけで違いに優劣をつけ、その考えを押しつけることはあってはならないことだと思います。そして独自に大切にされてきた伝統や文化に興味をもち、尊重することが大切だと考えます。「少数民族だからこそ、『民族の誇り』をもって生きていく」という宇佐さんの思いはアイヌ料理を広める活動につながったり、アイヌの伝統や文化を受け継いでいく力になりました。だからこそ、「和人とは違うから」などという勝手な理由で差別してほしくないと思いました。

宇佐さんのお話から、アイヌ民族への差別の問題は、他の人権課題と共通することがあると考えました。

まず、偏見や決めつけから差別が生まれ、差別される人が辛い思いをしたり困ったりしているところです。

そして、差別する側とされる側に受け止め方の大きな違いがあるということです。これは宇佐さんが紹介して下さったアンケートの中にはっきりと表れていました。

「アイヌ民族への差別がありますか」という問いに、和人の答えとアイヌ人の答えに大きな開きがありました。和人は差別があるとあまり感じていませんでしたが、アイヌ人は差別を受けたと感じている割合が高かったのです。このことから、差別をしている側は重く受け止めていなくても差別をされる側は辛い思いをして苦しんでいることが分かりました。これらのことは私の身の回りにある様々な差別と共通すると実感しました。

私は宇佐さんと二度出会いました。ちょうど自分の年齢に合った出会い方をしたと思います。小学生の頃は明るく楽しい時間の中からアイヌ文化のおもしろさや貴重さを知りました。中学生では、差別の現状や差別を解消しようとする宇佐さんの思いを知り、私にできることはないか考えることができました。

私はまず、自分から人との違いを認めて相手を尊重するようにしたいです。そして、宇佐さんから学んだことを伝えていけるような人になりたいです。